

2020年東京オリンピック招致

石川和臣

序論

17日間続いたロンドンオリンピックが閉幕した。連日に及ぶ激闘に世界中の人々が感動し、涙し、喜びを共有した。日本選手に目を向けると、今回のオリンピックでは、史上最多38個のメダルを日本に持ち帰ることができ、38個目のメダルは金色で祭典を締め括った。

ロンドンオリンピックの興奮も束の間、2020年のオリンピック招致合戦がすでに繰り広げられている。2020年オリンピックの開催地はまだ決定していない。バクー（アゼルバイジャン）・ドーハ（カタール）・イスタンブール（トルコ）・マドリード（スペイン）・ローマ（イタリア）・東京（日本）が立候補していたが、その中から、イスタンブール・マドリード・東京の3国が最終選考に残ることとなった。この3カ国で2020年のオリンピック開催都市の座を争うことになり、2013年9月7日にアルゼンチンのブエノスアイレス行われるIOC（国際オリンピック委員会）で正式に決定される。ロンドンオリンピックでは、日本人選手の活躍に筆者のみならず日本中の人々が感動した。筆者は、2020年オリンピックをぜひ、東京で開催してほしいと密かに願っている。それには、理由がある。1998年長野で冬季オリンピックが開催された時は、筆者は7歳と幼かったため、オリンピックというものをあまり理解していなかった。しかし、日本中が熱狂の渦に包まれ、オリンピックがいかに人の心を動かすものかを幼いながらも感じ取ることができた。その後筆者は、シドニー・ソルトレイク・アテネ・トリノ・北京・バンクーバー・そして、今回のロンドンオリンピックでそれぞれのドラマを目にしてきた。今後は、ソチ・リオデジャネイロ・平昌と続いていくが、そこにも私たちを感動させてくれる光景が待っていることと思う。2020年のオリンピックは日本の首都東京で味わいたい。本論文では、2020年オリンピックの招致について述べる。

本論

1. 1964年東京オリンピック

2020年の開催地に立候補している東京であるが、既にオリンピックを経験している。1959年5月26日に西ドイツの最大都市ミュンヘンで開催されたIOC総会において、オリンピックの東京開催が決定した。投票数では、東京が34票、デトロイトが10票、ウィーンが9票、ブリュッセルが5票、と東京の圧勝であった。これほどまでに、各委員の意見が一致したのは、初めてのことであった。1960年大会の開催地に立候補し、敗戦した東京にとって、オリンピックの開催地になることは悲願であった。決定以降、日本は、祝賀ムード一色となり、人々のオリンピックを成功させたいという思いが溢れていた。しかし、開催地に決定しただけであって、この時の東京は、オリンピックを開催できる状態ではな

かったのである。日本でアジアで初めてのオリンピックを成功させようと、開幕に向けての準備が本格化していくのである。

オリンピックの開催地に日本が決定したことを契機に、日本の生活に変化が見られるようになった。

(1) 一般道路の整備と高速道路の建設

オリンピック開催のためには、まずすべきことはそれまで貧弱であった道路の改善であった。当時の日本の道路は、舗装されていない所も多く、交通量が増えると大きな渋滞が発生していた。多くの人々が訪れることが予想されるオリンピックを迎えては、今まで以上に交通の混乱が予想された。祭典を成功させるためにも、道路の整備に力が注がれた。また、これと同時に、高速道路の建設が急がれた。1955年に通産省が発表した「国民車構想」を契機に自動車メーカー各社の競争が激化し、自動車は自家用車として、一般家庭に普及していった。1964年7月の自動車の登録台数は、100万台を超え、自動車は、生活の必需品になるまでになった。ところが、自動車が増加していく一方で、日本の道路事情は未発達なものであった。そんななか、東京で開催することが決定し、高速道路の建設によってオリンピックは絶好の機会であった。インフラ整備は着々と進み、道路等に注がれた投資額は約9600億円にもなった。アジアで初のオリンピックをそれほど成功させたい思いが強く表れている。高速道路の建設により、都心から空港までの所要時間は短くなり、選手やスタッフの送迎がた易くなった。

(2) 新幹線

オリンピック開会直前の10月1日、日本で初となる新幹線、東海道新幹線が運行を開始した。開業当時、東京 大阪間を「ひかり」は、約4時間で走行し、「こだま」は、約5時間で走行した。これまでよりも大幅に移動時間の短縮が可能になり、人々の新たな足として活躍した。新幹線の登場は、国民に衝撃を与えると同時に日本の技術の高さを証明した出来事であった。移動時間の短縮ができることから、「夢の超特急」と称された0系新幹線は、多くの人々に愛され、名残惜しいまま、2008年に現役を引退した。オリンピックの開催に合わされて作られた新幹線は、50年以上が経過した今もなお、形を変え、規模を拡大し、レールの上を走り続けている。

(3) テレビ

1953年2月1日、日本でテレビ放送が開始された。今では、テレビを持つ家庭があたりまえの世の中だが、当時の価格で50万を超えるものもあり、容易に手を出すことのできないものであった。テレビを持つ家庭にはテレビを見たい近所の人が集まり、野球中継やプロレス中継を楽しんだ。その後、テレビは徐々に一般家庭に普及され、人々のテレビへの関心は高まっていくことになる。この頃から、日本で、カラー放送が開始されるようにな

った。1964年10月10日、テレビでは、開会式の模様が流され、日本中の人々が長年待ちわびた光景がそこにはあった。スタンドで楽しむ人、お茶の間で楽しむ人、皆が笑顔でいっぱいになった。開会式の模様は、シンコム3号により、アメリカやヨーロッパに衛生中継された。カラー放送が開始されても、当時は、白黒で見る人々が大半だったため、白黒でも画質が落ちないように作られたカメラも使用された。その他にも、接話マイクやスローモーション映像も見られるようになり、テレビの新技术が披露された。

上述のインフラ等以外にも、ホテルや宿泊施設が建設され、時を同じくして地下鉄も整備された。オリンピックの開催に向けて、さまざまな分野で、人々が協力し合った。その甲斐もあって、大きな問題もなく、東京オリンピックは閉幕した。国際的スポーツ祭典の東京開催は、日本社会を発展させる格好の起爆剤となった。

2. 2020年東京招致

1964年にオリンピックを開催した東京が、開催経験のないマドリードとイスタンブールに勝つ可能性はあるのだろうか。

2-1.日本の弱みと強み

弱み

(1) 東日本大震災

震災では、多くの尊い命が奪われ、世界中が悲しみにつつまれた。残念な形で、世界に日本の存在を知らせるものとなってしまった。未だに、復興の進まぬ日本に更なる追い打ちがかかることが報告された。それは、2012年、8月29日に中央防災会議、防災対策推進検討会議、南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループの南海トラフ巨大地震の被害想定であり、以下に内容を記す。「東海・東南海・南海地震の震源域が連なる南海トラフ(浅い海溝)の最大級の巨大地震について内閣府は29日、死者は関東以西の30都道府県で最大32万3000人に達するとの被害想定を公表した。マグニチュード(M)9.1の地震で最大34メートルの津波が太平洋岸を襲い、震度7の強い揺れなどで最大約238万棟が全壊・焼失すると推定。」¹としている。この地震の発生頻度は低いと予測されているが、自然がいつ牙を剥くかは分からない。もしかしたら、本論文を書いているこの間に、巨大地震が起こる可能性さえある。それほど、自然は予測が難しい。外国人の中には、再び、あの悪夢を心配する声もあるだろう。さらには、原発という見過ごすことのできない問題もあり、日本での開催にあまり良い印象を持っていないのではないだろうか。

(2) 世論の支持

¹ msn.産経ニュース

<http://sankei.jp.msn.com/affairs/news/120829/dst12082918080009-n1.htm>

東京招致委員会が7月14日から22日に調査を行ったところ、招致に国民の58%が賛成・16%が反対となり、8月18日から30日の調査では、賛成が66%・反対が14%となった。調査の間に、ロンドンオリンピックが開催されたことが、賛成が8%上昇した理由だろう。しかし、この支持率は一過性のものであると筆者は考える。なぜならば、この調査がオリンピック直後に行われたからである。オリンピックブームが起こり、人々の視線が注がれているうちが花だが、その状態がいつまで続くかは分からない。実際、賛成派はまだまだ少ない。1年後同じ調査を行った時、人々の興味は薄れ、招致に無関心かもしれない。賛成派を増やすことも大事だが、興味や関心を維持していくことも重要である。

強み

(1) 1964年東京オリンピックの存在

過去にオリンピック開催を経験していることから、大会前の準備や大会期間中に付随して開催されるイベント等の計画も立てやすく、運営の予測もしやすい。「毎年、東京において、そして日本各地において、数多くの国際スポーツ大会を開催し、成功を収めている。これまでのスポーツ競技大会開催の経験と知識と成功は、オリンピック・パラリンピック競技大会を開催する上で、大きな強みであるといえる。」²(図表1)(図表2)ライバル国は、オリンピックを開催したことがないため、経験の面で言えば、日本が抜きん出ている。施設の面では、「予定している35競技会場のうち、15会場(43%)が既存の施設であり、2会場で大会のために恒久施設の改修が必要である。」³新たに建設しなくてもよい競技もあり、費用を抑えることが期待できる。オリンピックのために建設された施設のなかには、計画段階から将来的に利用できる施設づくりを考えていたものがある。例えば、国立競技場は、約50年経過した現在でもスポーツの競技会場やコンサート等のイベント等で活躍している。移りゆく時代のなかで、レガシー(遺産)として、今もなお生き続けているのである。2004年北京オリンピックでメイン会場として、その形から通称「鳥の巣」と呼ばれた北京国家体育場はそれ以降使用されることも少なく、過去の遺物となってしまっており、オリンピック終了後の再利用についての未熟な計画が浮き彫りとなっている。しかし、国立競技場をはじめ日本武道館や駒沢オリンピック公園等オリンピックのために建設や整備されたものは、色褪せることなく人々に愛されている。今年のロンドンオリンピックでは、再利用可能なバスケットボール会場が登場した。1000トンの鉄鋼を使用し建築されたのだが、大会終了後はその鉄鋼をリサイクルして使用することができ、後先のことをよく考えた施設づくりが実施されていた。2020年は、過去にオリンピックのために建設された施設を再び競技施設に使用することで、オリンピック・レガシーを感じ取ることのできる大会の開催を目指す。

² 東京招致委員会 申請ファイル 2. 競技及び会場 p.7
http://tokyo2020.jp/jp/plan/applicant/dl/TOKYO2020_02_jp.pdf

³ 前注2. 申請ファイル 2. 競技及び会場 p.8

図表 1 主な国際経験 東京

2002年 7月16日~19日	2002 ワールドカップテコンドー
2005年 12月16日~18日	ISU フギュアスケートグランプリファイナル
2006年 11月21日~26日	第16回パシフィックカーリング選手権大会 2006 東京
2007年 3月20日~25日	ISU 世界フギュアスケート選手権大会 2007
2007年 5月 9日~13日	近代五輪アジアオセアニア選手権大会
2008年 10月 5日	2008 世界柔道団体選手権大会
2008年 10月10日~13日	女子レスリング世界選手権 2008
2009年 4月16日~19日	世界フギュアスケート国別対抗戦 2009
2010年 9月 9日~13日	世界柔道選手権大会 2010 東京大会
2011年 10月 7日~16日	第43回世界体操競技選手権東京大会

図表 2 主な国際経験 日本

2002年 5月31日~ 6月30日	2002FIFA ワールドカップ 国内 10 都市
2003年 2月 1日~ 8日	第5回アジア冬季競技大会 青森県
2005年 8月28日~ 9月 4日	2005年 FISA 世界ボート選手権大会 岐阜県
2006年 8月19日~ 9月 3日	2006年 FIBA バスケットボール世界選手権大会 国内 5 都市
2006年 10月31日~ 12月 3日	FIVB バレーボール世界選手権 国内 10 都市
2007年 2月22日~ 3月 4日	2007年 FIS ノルディックスキー選手権大会 北海道
2007年 8月25日~ 9月 2日	第11回 IAAF 世界陸上競技選手権 大阪府
2009年 4月28日~ 5月 5日	2009年世界卓球選手権横浜大会 神奈川県
2010年 10月29日~ 11月14日	FIVB バレーボール女子選手権大会 国内 5 都市
2011年 11月 4日~ 12月 4日	FIVB ワールドカップバレーボール 2011 国内 14 都市

資料 東京オリンピック・パラリンピック招致委員会公式ホームページ

http://tokyo2020.jp/jp/plan/applicant/dl/TOKYO2020_02_jp.pdf

申請ファイル 2. 競技及び会場 p.5 競技大会経験を参照し、
東京及び日本の主な国際経験図を石川が作成。

(2) 日本人の特性

「日本での混乱の中での、秩序と礼節。悲劇に直面しての冷静さと自己犠牲、静かな勇敢さ、これらはまるで日本人の国民性に織り込まれている特性のようだ。」これは、東日本大震災時の日本に対するニューヨーク・タイムズの3月26日の記事である。この他にも、世界から日本を称賛する多くの声を聞くことができた。21年間生きてきた筆者にとって、東日本大震災は1番の恐怖を覚える出来事であった。しかし、それと同時に日本人の優しさも感じることでできる出来事であった。被災地ではさまざまな混乱が見られたが、それを解消するために日本中の人々が出来る限りのことを遂行した。自身も辛いはずの被災者が、同じ境遇の被災者を助ける姿も多く見られた。これは簡単にできることではない。しかし、日本人は、自らが率先しての人助けをごく普通にやってのける。日本人の特性を垣間見ることができた。非日常時、日本人ほど自己犠牲を見せる人種はいないだろう。東京での開催は、人々の助け合う姿が見られるはずである。

2 - 2. 招致活動

日本の弱みでも述べたが、招致について世論の支持率を上げることと同時に興味や関心を継続させていくことも必要である。開催地の座を得る勝ち取るためには、日本国民と同時に世界中の人々に日本をアピールしなければならないのである。その上で、東京招致委員会は、以下の動機を挙げ、大会ビジョンを掲げている⁴。

招致の動機

- ・復興の加速と世界への感謝
- ・テクノロジーとホスピタリティによる感動体験
- ・更なる東京の進化と共有
- ・すべての人が享受できるスポーツ文化の構築

「スポーツには、人々が元気や活力を持ち、子どもたちの健全な成長に寄与し、人間の尊厳に基づく平和の実現に貢献する力がある。こうしたスポーツの力を信じ、その最大の祭典であるオリンピック・パラリンピックを開催することこそが、今の東京そして、日本には必要である。そのための絶好の機会である2020年にオリンピック・パラリンピックを東京で開催したい。」

大会ビジョン

- ・アスリートが存分に力を発揮できる最高の大会

⁴ 2020年東京オリンピック・パラリンピック招致委員会公式ホームページ
<http://tokyo2020.jp/jp/message/>

- ・世界の多くの国や選手の参加を支援し、国内外で一体感の共有が図られる大会
- ・成長し続けるアジア市場をしっかりと取り込んだ大会
- ・世界の人々に日本や日本人の良さを感じてもらおう大会
- ・最新技術と若い創造力を結集した大会
- ・東京の都市としての魅力を最大限活用した大会

「およそ 100 年前のオリンピック・ムーブメントへの参加から、過去に日本で開催された大会がそうであったように、2020 年オリンピック・パラリンピックにおいても、単なる大会成功にとどまることなく、オリンピック・ムーブメントの持続可能な発展と、日本および世界の発展に貢献できるような大会とする。」

東京のみならず各地で招致活動はスタートしている。9 月 7 日には、開催都市決定 1 年前を記念して、招致ロゴに使用されている赤・黄・江戸紫・緑・赤の 5 色による東京スカイツリー特別ライティングが行われた。東京の新スポット東京スカイツリーの協力により、オリンピック招致に関心を持ってもらおうという戦略である。数年にわたる地道な努力が東京開催へ近づくための第一歩である（図表 3）。

図表 3 最新の招致活動

2012 スポーツ祭り 10月8日

招致委員会は、体育の日に2012スポーツ祭りを開催した。味の素ナショナルトレーニングセンターや国立科学センター等では、スポーツ体験が行われ、アスリートの方々がスポーツの魅力や素晴らしさを子どもたちに伝えた。

プログラム

- ◆ オリンピアンふれあいジョギング
- ◆ オリンピアンふれあい大運動会
- ◆ スポーツアドベンチャーワールド
- ◆ キッズ・スポーツ科学ランド
- ◆ 新体力テスト
- ◆ ロープ・ジャンプ(大なわとび)体験
- ◆ フェンシング体験「エペで突いてみよう」
- ◆ 親子でアスリート体験
- ◆ 体幹・バランストレーニング
- ◆ レッツチャレンジ!おもしろスポーツ
- ◆ ボート体験コーナー
- ◆ おもしろ自転車コーナー
- ◆ 自転車キッズ検定・体験
- ◆ フラッグフットボール
- ◆ 東日本大震災復興支援 スポーツ祭り特製ちゃんこ鍋
- ◆ 憩いの広場
- ◆ メダリストたちも食べている「勝ち飯」をたべてみよう! 「勝ち飯」体験会

主な参加オリンピック・アスリート

寺川綾 水泳・競泳

清水聡 ボクシング

森末慎二 体操・体操競技

伊調馨 レスリング

三宅宏実 ウエイトリフティング

計 76 名

スポーツ体験・スポーツ教室

陸上競技 新体操 フェンシング 水泳(競泳) トランポリン 柔道 サッカー
バスケットボール バドミントン テニス レスリング ラグビー(タグラグビー)
ボクシング ウエイトリフティング アーチェリー バレーボール ハンドボール
体操 卓球

資料 2012 スポーツ祭り公式ウェブサイト

<http://www.sports-matsuri.jp/>

オリンピック紹介、種目一覧を参照し、最新の招致活動(10月11日現在)を石川が作成。

3. 支援への感謝

上述した大会ビジョンのなかに「世界の多くの国や選手の参加を支援し、国内外で一体感の共有が図れる大会」というものがある。これを見て筆者は、震災時の海外からの温かい支援のことが真っ先に頭に浮かんだ。日本がどん底に落とされた時、世界中が手を差し伸べてくれた。そのなかには、ブータンやスーダン、カンボジア等の LDCs(Least Developed Countries/後発開発途上国) 17 カ国からの義援金もあった。「日本はこれまでこうした国々の内戦からの復興や国の安定化、経済発展や開発、人材育成などに積極的に貢献してきました。」⁵ 今度は彼らが先進国の日本のために動いてくれた。2004 年スマトラ沖地震で被害に遭った国々も支援をしてくれた。スリランカの人々は、福島県田村市を訪問し、被災者にカレーを炊き出しした。インドネシアの子どもたちからは、励ましの寄せ書きが在インドネシア大使館へ届いた。モルディブからは、義援金と特産物のツナ缶が届いた。支援される立場だった被災国が、日本を支援する側に回っていた。「困っていたら助ける。」この言葉は世界共通だろう。困っている人を助けるのに国境の壁は存在しないのである。世界の多くの国々が参加するオリンピックは、感謝を伝える絶好の機会である。

4. 記録と記憶

スポーツは勝敗をつけるものであり、結果が当然求められる。競技者は記録の更新を目指し、記録が塗り替えられる度に人々はスポーツの醍醐味に酔いしれる。世界中の強者が結集した今年のロンドンオリンピックでも、多くの新記録が樹立された。どうしても、記録が重要視されるが、筆者は、記録よりも記憶に残る大会の実現したいと考える。記録はデータとして残るものであるが、記憶は人々の心に残るものである。例えば、ジャマイカの陸上競技短距離選手のウサイン・ボルトは自身が持つ世界記録を幾度となく塗り替えてきた。ボルトの出場するレースは、また新記録を叩き出すのではないかと毎回注目が集まる。しかし、彼のタイムをどれほどの人が覚えているのだろうか。人々は、記録を見たいのではなく、その記録を達成する瞬間を見たいのではないだろうか。1992 年バルセロナオリンピック、競泳女子平泳ぎ 200 メートルで岩崎恭子が金メダルを獲得した。実は、その時、彼女は当時のオリンピック新記録を叩き出している。しかし、新記録よりも「今まで生きてた中で、一番幸せです。」という 14 歳・6 日の少女が発したフレーズの方が人々の印象に残っているのではないだろうか。オリンピックを見ると、過去の名場面が思い出される。また、眠っていた記憶が呼び覚まされ、あの時の自分の歳を確認してみたりはしないだろうか。「2020 年大会を東京で開催してよかった。」と言ってもらえる大会にしてほしい。そして、時代を超えても人々の記憶に残る大会の実現を筆者は願っている。

⁵ 外務省 わかる！国際情勢 東日本大震災に対する国際社会からの支援と励まし
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol75/index.html>

結論

筆者は、2020年夏季オリンピックを東京で開催し、震災時、世界から受けた支援や励ましに対してのお礼をしたいと考える。前回の東京大会開催中、海外から訪れる観光客を受け入れる一般家庭が存在したが、2020年大会でも日本人の優しさが滲み出る温かいおもてなしで人々を迎えようではないか。素晴らしい環境を作り上げ、その下でスポーツの感動や喜びを皆と共有する。そして、世界との絆を深める。これこそが、本当のオリンピックであり、今の日本には必要なのではないだろうか。東京開催が、世界中の人々の記憶の1ページに刻まれる大会であってほしい。その記憶の一つは、復興から立ち上がろうとしている日本の姿であってほしい。2013年9月7日まで、約11ヶ月の期間がある。現在、多くの協力を得て招致活動が行われているが、今後も続々と招致への動きが見られるだろう。日本各地、もしかしたら海を越えての活動もあるかもしれない。開催都市決定日まで、どれほど日本を東京をアピールできるかが鍵になる。「地道な招致活動が実を結ぶ。」筆者はそう信じている。そして、「東京開催決定」という吉報が、遥か遠いブエノスアイレスから届くことを筆者は願っている。

要約

2013年9月7日にブエノスアイレスで行われるIOCで、2020年夏季オリンピック開催都市が正式に決定される。最終選考に残る東京だが、弱みも強みもある。その弱みを消すためにも、強みを伸ばすためにも、招致活動が鍵となる。日本を東京をアピールするために、現在、招致活動が行われており、今後も更なる力を入れた動きが見られるだろう。筆者は、東京オリンピックが、世界に感謝を述べる絶好の機会であると考えている。震災時に、世界から多くの支援や励ましがあり、手を差し伸べてくれた。そのおかげで、今の日本があると言ってもよいだろう。オリンピックを通して、震災時の感謝を述べたい。日本人の優しさによる温かいおもてなしで人々を迎え、サポートをする。小さなことから、世界との絆を深めたいと筆者は考えている。東京での開催が、人々の記憶に残る大会であってほしい。また、その記憶の一つに、復興から立ち上がろうとしている日本の姿であってほしい。約11ヶ月後、吉報が届くことを願っている。そして、8年後の東京で、素晴らしい環境の下、世界中の人々がスポーツを楽しむ光景が見られることを願っている。

キーワード

オリンピック招致

東京

1964年東京オリンピック

東日本大震災

国際経験

オリンピック・レガシー

日本人の特性

支持率

感謝

記憶